緑丘さっぽろ

第99号 ■平成27年6月1日
編　集 ■緑丘会札幌支部広報委員会
札幌市中央区北5条西5丁目 sapporo55 3F
http://www.ryokyukai.com/
E-mail:ryokyukai@galaxy.ocn.ne.jp
印　刷 ■岩橋印刷株式会社

張碓峠を望む
飯嶋　耀〈昭和32年卒〉

平成27年（2015年）緑丘会札幌支部

年次大会のご案内

木々の緑が映える季節を迎えました。
本年の年次大会を右記の要領にて開催致します。
多くの皆様のご参加をお待ちしております。

申込み
緑丘会札幌支部
☎/FAX: 011-231-6900
MAIL:ryokyukai@galaxy.ocn.ne.jp

●と　き　平成27年6月13日(土)

●ところ　札幌プリンスホテル
国際館パミール３階
(中央区南3条西12丁目　☎011-241-1111)

●会　費　5,000円

●プログラム
16：30　ミニコンサート（グリークラブOB）
17：00　札幌支部年次総会
懇親会＆新入会員歓迎会

●ご招聘
木村 泰知 先生（社会情報学科　准教授）
後藤 英之 先生（ビジネス創造センター　准教授）

目次

本学の大学改革…… 2
副学長就任にあたって …… 3
「緑丘さっぽろ」と私 …… 4
平成27年　緑丘会札幌支部年次大会のご案内 …… 5
連続テレビ小説「マッサン」を通じた活動で得たもの…… 6
親子で語る緑丘の思い出 …… 7
緑丘戦没者記念塔との出逢い …… 8
逸脱を恥じない生き方…… 9
平成27年ゴルフ会日程／女子部会だより …… 10
「天元」理論の解／同期会・行事のご案内…… 11
編集後記…… 12

本学の大学改革

小樽商科大学理事・副学長
大　矢　繁　夫
（昭和47年卒）

昨年4月から、理事・総務財務担当副学長を務めています大矢です。それ以前は理事・教育担当副学長を6年務めました。現在、「総務・財務担当」が当面する主要な仕事は、大学改革となっています。具体的には、「グローカル戦略推進センター」という、本学の「ミッション再定義」を実施する新センターの立ち上げに関わっています。

この新センターの役割を一言で表しますと、グローカルな視点をもった教育・研究・地域貢献活動を、産官学の連携の下で推し進める、となります。そして、例えば次のような、従来の教育・研究・地域貢献活動にはなかった新たな事業が行われます。本学学生が留学生とともに英語で専門講義を受けるグローカルマネジメントプログラム、海外インターンシップ、財務局と連携した研究会とその成果の授業への活用、新設科目による北海道経済の強み・特色についての講義等々です。

大学は、世界や社会一般、人間や自然を対象に研究し、問題解決を目指します。研究はこのように普遍的課題を持ちます。そしてその成果・知見を若い学生諸君に伝え、社会を担う立派な見識と人格を備えた人材を育てるのが、大学教育です。このような大学の教育･研究という基本的役割は、常に変わるところがありません。しかし現在、この役割に加え、自分たちの足元の、目の前の北海道という地域の社会や経済をどのようにしたいのか、そのために大学は何をできるのかを考え、また地域課題に責任を持って取り組む人材を育成するということが重要な課題となっています。大学の役割が、教育、研究、地域貢献という3本柱となっている所以です。そして、この3本柱はそれぞれが独立して存在するのでなく、分かちがたく結び合ってもいます。従来の教育・研究の普遍的課題に、地域の具体的課題がいわば刷毛で薄く上塗りされ色付けされている、ともいえます。教育・研究・地域貢献活動は、今や一体化して力を発揮しなければならない時代状況といえるかもしれません。文科省は、平成25−27年度を「改革加速期間」と呼び、大学改革の加速を促しています。本学の弛まぬ歩みに、緑丘諸兄姉の皆様の変わらぬ応援をお願いします。

副学長就任にあたって

小樽商科大学副学長
近　藤　公　彦

昨年4月より、大学評価・産学官連携等担当副学長を務めております近藤公彦です。この場をお借りして、大学評価・産学官連携に関わる私の抱負を述べさせていただきたいと思います。

今年度、国立大学は第2期中期目標・中期計画の最終年度を迎え、本学においても現在、その達成に向けて邁進するとともに、来年度から新たに始まる第3期の目標・計画の策定作業を進めているところです。大学は今、文部科学省をはじめ、大学評価・学位授与機構、大学基準協会といった複数の機関からの評価を受ける立場にあり、つねに社会の「目」にさらされています。「象牙の塔」と言われ、社会からある意味、隔絶していた感のあったかつての大学は、もはや存在しないと言っても過言ではありません。しかし、私はそうした動きをポジティブに捉えています。株式会社が株主や顧客、取引先から厳しい目で見られ、それによって成長していくように、大学もまた、社会・経済の重要なプレイヤーとしてステークホルダー（利害関係者）から評価を受け、自己改革していかなければならないと考えるからです。

そのような改革の流れのなかで、大学はまた、産業、研究・教育、そして行政の諸機関との関係の構築・強化を図っていくことが求められています。大学が蓄積してきた知識は「知的資源」として産業や行政、他の研究・教育機関との連携のなかで活用されなければなりません。本学は文系単科大学として「商」、つまり広い意味でのビジネスに関連した深い知見を有しています。そうした知見を道内の理系大学・学部のそれと融合することによって、新しいイノベーションが創造されると考えています。また、優れた技術を持ちながらもマネジメント力の弱い企業に対して、本学のビジネスやマネジメントの知見を提供することは大きな社会貢献となるでしょう。

こうした活動を通じて、本学は北海道に根ざした大学としてなくてはならない存在であり続けなければならないと考えています。その存在意義をさらに深めるためにも、緑丘会札幌支部の皆さまからもより一層の応援をいただきますよう、お願いいたします。

不動産の運営・売買・相続について
安心して相談できる
パートナーをお持ちですか？

ESSE

■取扱業務
不動産仲介／不動産買取／不動産再生事業提案／有効活用コンサルティング／デューデリジェンス／プロパティマネージメント（賃貸マンション・ビル・駐車場・賃貸地）／修繕工事・工事監理

株式会社 エッセ

本　　社：札幌市中央区北4条西6丁目1番3号 北四条ビル2階（電話）011-242-2220
小樽支店：小樽市稲穂3丁目7番4号 朝日生命小樽ビル3階（電話）0134-23-4131
■ネットワーク　本社（札幌）／函館／小樽／釧路　http://www.esse.co.jp
専務取締役　平塚　彰（昭和57年卒）／函館支店　小澤光弘（平成22年卒）

「緑丘さっぽろ」と私

緑丘会札幌支部広報委員
伊　藤　文　二
（昭和46年卒：中川(民法) ゼミ・グリークラブ）

緑丘会札幌支部（以下支部）広報誌「緑丘さっぽろ」が発刊以来次号で区切りの100号となる。第1号発行から現在まで編集に参加させていただいた者として感慨もひとしおであるが、痛い思い出も多々ある。今ここにその全てを披瀝するつもりは毛頭ないが、思いつくままに駄文を並び立てることを先ずお許し頂きたい。

支部のライブラリーには昭和52年6月10日発行の第2号からしか現存していない。記念すべき第1号は何処に?と事務局の方の手を煩わせてみたが一向に見つからない。そこで第2号をよく読み返してみると「第1号は昭和51年6月の総会にあわせて当時事務局長だった島谷喜明先輩（昭和18：故人）のお骨折りにより云々」と編集後記にある。すると冒頭の、私が第1号発行から編集に参加、という根拠はたいへん危ういこととなってしまった。

「緑丘さっぽろ」誕生秘話?と私との関わり

昭和40年代後半、活動の停滞感を感じ取った支部幹部が、野沢悌三幹事長（昭和17：故人）を中心として、支部活動の活性化と若い同窓生の取り込みを図るための具体案を検討する形で昭和50年に入り「札幌支部組織強化委員会」を召集した。第2号に強化委員会による昭和51年12月9日付の「組織強化の為の提案」全文が掲載されている。内容の全ては割愛させていただくが、そこには現在の支部の常設委員会設置を始めセミナー・サロン・会員証の発行など、今、支部として取り組んでいる様々な活動の原点とも言うべき提案がなされている。その提言の一つに支部広報の重要性が謳われ広報委員会が結成、「緑丘さっぽろ」として具体化した。以上が「緑丘さっぽろ」誕生の経緯の概要である。

初期の広報委員のメンバーには戸沢明氏（昭和25：故人）を筆頭に池田雄亮氏（昭和29：故人）、新井田邦雄氏（昭和48）そして私（昭和46）。翌年滝沢充雄氏（昭和19）も加わり、後には山田二郎副支部長（昭和45）も名を連ねる事となる。

私は昭和50年7月に4年あまり務めた会社を辞め仙台より女房の実家である印刷会社にお世話になる形で初めての札幌暮らしを始めていた。学生時代、グリークラブを通して緑丘会には大変お世話になっていたので、竹山涼一副幹事長（昭和18：故人）にご挨拶に伺ったところ、恩返しのつもりがあるなら支部の仕事を手伝いなさい、と、結局強化委員と広報委員に名を連ねることとなり現在に至っている。学生時代の恩返しは今日も継続中である。

時代を経て紙面・スタッフも充実

発刊当初は新年交礼会・年次大会・北海道寮歌祭に合わせて年3回発行、結構慌ただしくもあったが頁数も少なく、粛々とこなす感あり。頁数が4頁から6頁に増えると企画物などもひねり出さねばならず頭を悩ますところ、昭和58年、小樽運河存廃問題が話題になった頃には小樽まで出かけ大学や小樽支部関係者を中心に取材を敢行、それなりの評価を得たこともあった。

平成9年になると広報委員長は池田氏から山田氏に交代、制作も60号よりアナログからデジタルへと時代の流れに従って移行、紙面も基本8頁、エバーグリーン講座の情報やサテライト（当時は商工会議所内）、キャンパス情報など、現在のスタイルが確立された。

平成10年9月には30回を重ねた「北海道寮歌祭」が閉幕、そして平成11年10月発行の66号より当時発足して間もない丘美会より巻頭の絵画の提供があり、栄えある第1号には当時の丘美会会長、中澤嘉男氏（昭和10：故人）の油絵が掲載されている。それに合わせ全頁モノクロから表紙だけでもカラー化が図られ、文字通り彩りを添えることとなった。この絵画の提供は現在も続いており、毎回、会員の力作を掲載させていただいている。

現在では全頁がカラー、頁数も12～16と大幅に増え、掲載情報量も飛躍的に多くなり、広報委員スタッフも拡充。ただ、電波やネットなどの一過性の媒体と比べ活字媒体は読者の目に長く留まるという特性上、誤字・脱字はもとより誤った情報の伝達は絶対に許されない。支部事務局の方々の原稿の集約と校正のご苦労を考えると只々頭の下がる思いでいっぱい。40年間弱の広報委員体験を振り返ると反省すること仕切りである。

終わりに

初代広報委員長の池田氏は弁護士というお仕事柄、誤字・脱字、不適格な表現には敏感で、初校の段階での厳しく鋭いご指摘には今でも身の震える思いがする。また、幹事長や副支部長を務められた竹山氏からは企画のポイントや紙面の体裁など、度々厳しいご指摘を受けた記憶があるが、緑丘思いの優しい諸先輩。まだまだご活躍いただける年齢であったのに、共に思いのほか早く鬼籍に入られたことは本当に惜しまれる。懐かしい人々の話題に触れさせていただき、また伊藤光安現広報委員長（昭和45）を始め歴代の広報委員長、多彩な広報委員仲間と支部事務局の方々に感謝し、この辺で駄文を閉じさせて頂く。

平成27年　緑丘会札幌支部年次大会のご案内

と　き　平成27年6月13日（土）
ミニコンサート：午後4時30分～
総会・懇親会　：午後5時～

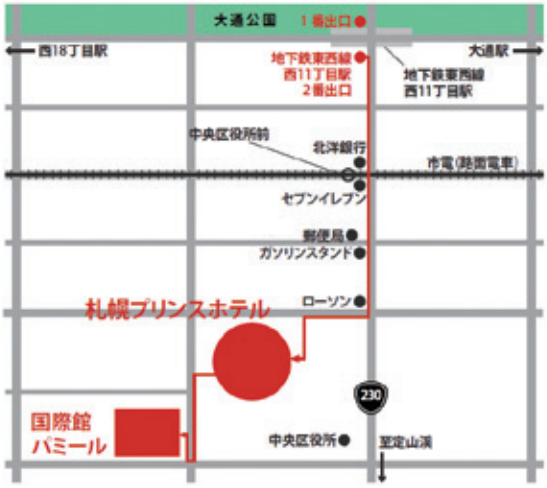
ところ　札幌プリンスホテル
国際館パミール3階
（中央区南3西12　☎011-241-1111）

交　通　地下鉄東西線西11丁目駅から徒歩3分

会　費　5,000円（当日受付にて承ります）

ご招聘　木村　泰知　先生（社会情報学科　准教授）
後藤　英之　先生（ビジネス創造センター　准教授）

当番幹事　昭和61年入学・平成2年卒



今年の会場は、札幌プリンスホテルと致しました。国際館パミールの大会場で、幅広い世代の同窓が一堂に会し、ご歓談いただければと思います。

総会に先立ちミニコンサートを予定しております。
昨年に続き、小樽商科大学グリークラブＯＢの皆様のすばらしい歌声をお楽しみください。

同期同窓はもとより、クラブ・サークル・寮・職場等、あらゆるご縁をお誘い合わせの上、多数のご参加をお待ちしております。
ゼミやサークルなど、お仲間同士でのお席も承ります。(10名程度)
また、お子様連れでもご参加いただける様、キッズスペースもご用意しております。
お席は卒年毎となります。入学年等のご希望がある方、お子様連れの方は、お手数ですがその旨をお知らせください。

お申込みは、**6月6日（土）**までに、各年度幹事か支部事務局まで卒年とお名前をご連絡ください。

会券は下記、または支部ホームページからダウンロードしてご利用ください。
当日は受付が大変混み合いますので、できるだけ事前にお申込みの上、会券をご持参くださいますようお願い申し上げます。

キリトリ線

平成27年（2015年）緑丘会札幌支部

年次大会

●と　き　**平成27年6月13日**(土)
ミニコンサート　午後4時30分～
総会･懇親会　午後5時～

●ところ　札幌プリンスホテル
国際館パミール 3階
（中央区南3西12　☎011-241-1111）

●会　費　5,000円

お名前

ご卒年　（ 昭・平 ）　年卒　学生　年

以下、初めてご参加の方、変更のある方はご記入ください。

ご住所

電話･アドレス　（ 自宅・勤務先 ）

所属ゼミ･部･サークル

連続テレビ小説「マッサン」を通じた活動で得たもの

小樽商科大学商学科3年
鎌　倉　千　里

私は、「マジプロ」の履修を通じて1年間、余市町の地域活性活動に取り組んできました。マジプロが始まって7年目になっていましたが、小樽以外の地域を取り上げるのは初めてだったそうで、苦労したことがたくさんありました。しかし、その苦労は私にとって大きな学びになったことを、活動紹介と共に報告させていただきたいと思います。

まず、プロジェクトを始動させたのは初夏からでしたが、「マッサン」の放映は秋からだったので、ドラマが始まるまでは暗中模索の状態でした。その中で、出来ることは何でもしてきました。余市へ毎週のように会議をしに行ったり、余市町内を巡って余市のことを学ぶ「町民講座」に参加したり、観光客を迎え入れる心を身に付けるために企画された「おもてなしセミナー」にも参加しました。

ドラマが始まってからは、一気に活動が増えて大変でした。例えば、ドラマの感想をFacebookに投稿するのがなかなか負担でしたが、こういった地道な事をコツコツ続けることは大切だったのだと後になって実感しました。活動の中でも、私が特に熱心に取り組んだのが「プディングケーキ」というドラマに出てくるケーキのレシピ再現でした。現代向けにどうアレンジするか？材料は何を使うか？など色々な課題がありましたが、ケーキ屋さんの協力を得ながら作り上げていきました。このケーキは注目度が高く、新聞やテレビ等のメディアに取り上げられ、活動をアピールするきっかけとなりました。新宿伊勢丹の物産展で販売した際には、竹鶴政孝さんのお孫さんにも来ていただいて、お話する機会がありました。この事は、私にとって大変刺激になりました。テレビ出演した際には、ドラマ出演者の方にもケーキを食べていただいて夢のようでした。まさかここまで発展するとは初めは思っていなかったので、再現して本当に良かった、再現する意味はあったのだという手応えを感じることができました。

これらの活動を通じて、今までに無かった人脈ができ、今でもプライベートな交流があります。連携先の他大学の学生さんや、小樽の方や、余市の方など、沢山の方々にお世話になってきました。周りの人に恵まれたお陰で活動が充実したのだと思っています。マジプロをきっかけにつながった人の輪は、私にとって宝です。これからも感謝の気持ちを忘れず、みなさまに恩返ししていきたいです。

Prince Hotel Sapporo
Seibu Group でかける人を、ほほえむ人へ。

地上107m、28階、客室587室。
明るく落ち着いた雰囲気の客室と
最上階には札幌市内を一望できるレストラン。
札幌プリンスホテル
札幌市中央区南2条西11丁目　TEL:011-241-1111
地下鉄西11丁目駅2番出口より徒歩約3分
www.princehotels.co.jp/sapporo

－親子で緑丘人－

親子で語る緑丘の思い出

山　田　祐　己
（平成25年卒）

みなさんに質問です。自分のイメージした通りの大学生活を送ることが出来ましたか？この質問にはっきりと「想像通りの大学生活でした。」と答えられる人は、小樽商科大学にいるのでしょうか。これまでも、そしてこれからもそのような人は存在しないのではないか、と私は思います。それぐらい小樽商科大学での大学生活とは刺激に満ち溢れた場所であり、新たな出会いの場所であり、そして人生にとってかけがえのない時間を与えてくれた場所であったと思うからです。

振り返ると私も大学生活のイメージは出来ていませんでした。父が通った大学であったため、入学前から様々なことを聞き、教わりました。二代目緑丘人として大学生活の情報は他の方より多かったに違いありませんが、振り返ってみても聞いた話と何一つ同じ経験はありませんでした。しかし、父の本当に伝えたかったものはその根っこに共通してある部分、緑丘魂のようなものを伝えてくれていたのだと思います。私はそのおかげで自分一人ではイメージすることは叶わなかったであろう、経験をすることが出来ました。

そんな私が大学生活で経験することのできたかけがえのない出来事は、やはり第96代応援団団長としての活動でした。誰がイメージできていたでしょうか。私自身イメージすることは出来ていませんでしたし、父もまさか自分の息子があの小樽商科大学応援団として活動することは夢にも思っていなかったと思います。

復活当初は私自身にとってもまた、多くの現役学生にとっても大学内に応援団が在る風景というものを知らず、父の通っていた当時とその風貌こそ違うとはいえ羽織袴姿で活動している様はイメージしがたいものであったと思います。そんな中、応援団を復活させる会の方々による、様々な面での指導があったから復活の団員達や現役学生達のイメージの共有がスムーズに出来、共通した小樽商科大学応援団像というものが出来上がってきたのだと思います。事実として徐々に現役学生へと浸透し、意思そして歴史を受け継ぎ積み重ね、今や父が通っていた時代のように当たり前にそこに在る小樽商科大学応援団として活動していることを考えると感慨深いものがあります。

最後に、私が小樽商科大学で学んだこと、そして父の伝えたかった緑丘魂とは、「絆」ではないでしょうか。応援団を通して人と人とのつながりの大切さを知り、それは応援団に限らず単科大学である小樽商科大学だからこそなせる唯一無二の強みでした。結束力の固い絆を結ぶことが如何に大切であるかということを学ぶことが出来ました。「北に一星あり、小なれどその輝光強し」私は本当にその通りだと思います。そしてその緑丘に輝く星の一部に親子二代の連星となれたことを誇りに思います。

山田隆秀氏（昭和60年卒）
手にしているのは、会社の大先輩より譲り受けた創立25周年記念のタオル

緑丘戦没者記念塔との出逢い

山　田　二　郎
（昭和45年卒）

今年の8月15日は戦後70年の日を迎える。おおよそ半世紀前の昭和44年の同日、はるか石狩湾を望む母校の東高台に白い塔が立てられ除幕式が行われた。

第2次大戦末期には母校からも在籍のまま戦場に旅立ち帰らぬ人となった先輩は少なくない。

その時代、母校で教鞭を執られ多くの優秀な学生を戦地へと見送った思いを、遺族との交流の中での教授の吐露という形で取り上げたラジオドキュメンタリー『丘と海と白い雲』がHBC（北海道放送）によって制作され、当時の芸術祭参加番組として全国放送された。これを聞いた卒業生、とりわけ共に戦地に赴いた経験を持つ昭和17年から20年卒の同窓生が中心となり、仲間を慰霊するモニュメントを母校の校庭に、という運動が全国的に展開された。その教授とはフランス語でお世話になった故松尾正路教授であり、運動の中心になられたのが、今は亡き当時の緑丘会札幌支部幹事長野澤悌三（昭17年卒）先輩と幹事長竹山涼一（昭18年卒）先輩であった。

昭和44年のある日、グリークラブ部長であった私は、指揮者・マネージャーと伴に小樽北海ホテルで両先輩から「今年の終戦記念日に緑丘戦没者記念塔が完成し除幕式を予定している。ついてはグリーには献唱という形で校歌・学園讃歌・北斗寮歌そして進軍歌を歌って欲しい」という要請があった。当時は学園紛争の真っ只中。全国の大学等にあった所謂招魂碑・鎮魂碑の類が汚されたり壊された時代である。先輩達もその辺の事情を重々ご承知の上で我々に声を掛けられたと記憶する。早速部会を招集。しかしと言うかヤハリと言うか、百家争鳴、結論は献唱すべしには至らなかった。数日後、竹山先輩から再び連絡があり、伊藤文二（昭46年卒）マネージャー他数名の部員とともに札幌のご自宅へ伺った。そこで聞かされたのが件のドキュメンタリー番組。アナクロ的な発想で慰霊碑を建立するのではない。松尾先生の思いに同窓生が共鳴し展開した運動であり、宗教色を排してその名も「記念塔」とし、執り行われる儀式も無宗教とする等の説明を受け、再度部会を招集した。

除幕式は校歌で開幕。テープカットと同時に300羽のハトが一斉に飛び立ち純白の塔の上空を大きく旋回。黙祷と献花そして献唱が行われ、夕方からは北海ホテルでの緑丘戦没者をしのぶ会。夏休み中にも拘わらず大半の部員が参加し普段の演奏会では感じられない感動を覚えた。

当時の会報「緑丘」には「三角形の一辺が小樽湾の水面に向かって垂直に立つこの純白の塔は、塔と云うよりモーゾレに近く、もし塔の内部の薄明かりに十字架が見えるならばもっとも単純清楚な礼拝堂とも思われるものです…これはまったく予期しなかったことで、当日、遺族のある婦人が戦没者氏名の一つを手で愛撫するようにさすって、立ち去り難く泣いておられたとか…」との松尾先生の一文が残されている。

そして、しのぶ会では「若人逍遥の歌」「赤とんぼ」さらには「同期の桜」を歌ったと記憶する。

アンコールが止まず「母さんが夜なべをして…」や「妻を嫁とらば才たけて…」と歌い続け最後にもう一度「校歌…金鱗おどる…アイン・ツバィ・ドライ…」

歌い終わったその時、着物姿の羽織を召した小柄の初老のご婦人が私のそばにいらして確かこう言われた「息子のことがわかったような気持ちになりました。ありがとう」と。

あの日からもうすぐ半世紀。減少の一途のご遺族関係者の参列は時の流れを否応なしに感じさせる。今年も記念塔の前に立って永遠の平和を念願する営みを静かに続けて行きたいと思う。

逸脱を恥じない生き方

豊　村　竜　晃
（平成14年卒）

【「普通の社会人でなくなる」経験】

平成23年4月、私の社会人生活は急展開を迎えました。前年夏に私が「アスペルガー障害」であるとわかり、勤務環境の調整など協議を色々していたのですが、障害を理由に解雇を言い渡されたのです。以後数か月間、失業保険の手続や求職、果ては労働審判まで、まさに文字通り「忙殺」される日々を送り精神的に疲弊し、全く就労できない状態になりました。一時は家族との関係も悪化し、出かけた先から「当分帰らない」と一方的に告げたのが平成24年6月のことです。しばらく放浪していたところ、札幌市北区の生活困窮者支援団体を知る人に声をかけられ、そこで住居も含めた支援を受けることになりました。

【助けられる側から助ける側に】

数日後、私を支援団体の代表が呼び出し、いわく「うちの団体で働いてみろ」と。他の人間と接する事に慣れるだけで良いという程度のハードルから始めないと就労は困難と思われたようで、その団体が運営する店舗での接客と事務の仕事を得ました。その中で私は会計と法務に適性があると判断され、就労支援部門を分離独立させるのに合わせてその事務責任者に抜擢されました。支援される事に甘んじず、自分に何ができるかを突き詰めて考え実践した結果が、今度は私自身が支援活動を行う側の運営者になることでした。

【札幌から北広島へ】

その後は新たに設立されたNPOに関わる事務の一切を引き受け、北海道庁からの補助金獲得もできた頃、私はこういった支援団体の運営のエキスパートを目指す夢が見えてきました。このため、だいたい自分の役目も果たせたかと思ったこともあり、平成26年春に新規設立されたばかりの北広島市内の支援団体で事務の人材がいないことを聞き、7月よりそこに籍を移すことになりました。

【何もしなければ何も始まらない】

現在は団体の事務一切の他、直接に施設入居者と接して生活再建と社会復帰の手伝いに微力ながら活動しています。半月に一人は新たな人を迎えるほど最近は住居に困窮する人が多く、相談だけならばもっと頻繁です。

私のたどった軌跡は、学部で専攻した政治学の言葉でいうなら「社会規範からの逸脱」に他ならないでしょう。しかし、社会情勢が変わるにつれて新たに生じる問題への解決策を作り出すには、たまには思い切り逸脱する人間がいる必要もあります。たとえどのような結果であったにしても、何もしないよりは格段にましです。

（特定非営利活動法人ほっとらんど　事務局長）

平成27年ゴルフ会日程

開催日	コース名	スタート時間	備考
5月5日（祝・火）	茨戸CC	7：53	プレー料金　10,390円 ☎0133−64−2115　7組
7月4日（土）	札幌国際CC島松コース	12：50	プレー料金　13,000円 ☎011−376−2221　6組
8月12日（水）	ツキサップCC	8：34	プレー料金　10,300円 ☎011−881−6701　8組
9月23日（祝・水）	札幌GC由仁コース	7：21	プレー料金　12,648円 ☎0123−83−2777　7組

競技方法

・今年度も昨年同様年4回開催とします。
・5月例会はダブルペリア、その他例会は申告ハンディ戦を行います。
・使用ティはレギュラーティですが、満70歳以上の会員は、シルバーティを設けます。希望によりどちらかを選択出来ます。（HCはレギュラーティ選択時と同等）
・各例会はすべて支部長杯争奪戦とします。なお、各回優勝者に支部長杯を贈呈し、取り切り戦は行いません。
・会費は3，000円とします。（昼食・賞品代に充当）但し、午後スタートとなるコンペは2，000円とします。（食事は出ません）

お問合せ　緑丘会札幌支部　☎/FAX：011-231-6900　MAIL：ryokyukai@galaxy.ocn.ne.jp

女子部会だより

下記の内容で、色彩カウンセラー・昆野照美さん(昭62卒）による色彩心理学セミナーを開催いたします。

色彩心理学ってなぁに？
塗り絵でハートのリラクゼーション

毎日生活するうえで、オンとオフの自分は常に元気ですか？仕事や人間関係などに、素の自分はなかなか出しにくいもの。
塗り絵をすることで、自分の心のパターンに気づき、毎日、ちょっぴり楽にすごしてみませんか？

日　時▶7月8日(水)　18時から1時間程度
場　所▶札幌サテライト
参加費▶無料
持ち物▶12 ～ 24色の色鉛筆かクレヨン
※定員15名(先着順)

※色彩心理学の塗り絵～当日は同じものにはならない可能性があります

男性の方の参加も歓迎いたします。詳細・お申込は、札幌支部事務局まで。(TEL011-231-6900)

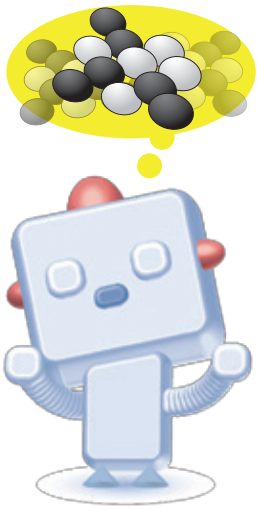
小樽の魅力を再確認してみませんか

「おたる案内人検定」をご存知でしょうか。小樽の文化・歴史を学び、合格すると認定証が授与され、市内観光施設の入館料が減免されます。もちろん、ガイドとして観光ボランティアの活動もできます。

女子部会では、検定試験の勉強会を開催しています。これまで6名が1級に合格しました。3月の試験に向け、11月頃から月1回程度、テキストや過去問をもとにアドバイスいたします。性別、年齢は不問。小樽を愛する皆様のご参加をお待ちしております。

「天元」理論の解

札幌緑丘囲碁クラブ



江戸時代前期の天文暦学者、渋川春海は科学に優れた理知を以て盤面を研究、先をもって天元を占めれば絶対に負けないという確信を得た。
確信を実証せんと本因坊四世道策と手合常先で打った。
244手の力戦であったが春海の9目負けに終った。外ならぬ春海とは棋家四家の一家、二世安井算哲である。
時を経て木谷・呉清源の新布石で天元が脚光を浴びたが、現在に至るも「天元絶対」は真の解決には至っていない。
電脳碁がその「解」を見つけるのか?!

〈活動〉　○2月15日（日）13：00～　定例会、定時総会
日本棋院北海道支部　27人
○4月26日（日）12：30～　春季知事杯戦
一部リーグＡチーム　8位

同期会・行事のご案内

昭和45年卒45周年記念同期会

昭和45年大学紛争のまっただ中、艱難辛苦（?）の末に卒業を果して45周年、数字合いの周年記念同期会です。既に60名を超える参加同意を頂いてます。未だの方、連絡漏れの方がいらっしゃいましたらご一報を…

日　程▶ 平成27年9月2日（水）～4日（金）
9月2日（水）　懇親会・宿泊（登別グランドホテル）
懇親会開始　18:00
9月3日（木）　懇親ゴルフ
9月4日（金）　OPゴルフ

連 絡 先▶ 小樽商科大学同窓会
緑丘会札幌支部事務局　（担当・上田）
Tel&Fax011-231-6900
Mail：ueda@gria.co.jp
実行委員長　伊藤光安
以下幹事16名（うち東京2名）

参加費用▶懇親会・宿泊　15,000円
懇親ゴルフ　3,000円（プレー費は各自別途、樽前カントリークラブ）
OPゴルフ　9,800円（プレー費、ツキサップカントリークラブ）

第27回おたる運河ロードレース大会　開催のお知らせ

2015年6月21日（日）、おたる運河ロードレース大会が開催されます。小樽色内ふ頭を9時にスタートします。和田健夫学長、和田良介先生も出場されます。エントリーは既に終了しておりますが、小樽港の潮風を満喫しながらの応援、ご観戦に、ぜひ足をお運びください。

丘美会絵画展2015

と　き▶2015年6月23日（火）～28日（日）　AM10：00～PM6：00（最終日はPM4：00まで）
ところ▶ギャラリー大通美術館　（中央区大通西5　大五ビル）

軽快な走りと驚きの低燃費を両立。
クリーンディーゼル搭載、次世代コンパクトSUV。
NEW MAZDA CX-3
北海道マツダ販売株式会社
〒060-0032 札幌市中央区北2条東1丁目　TEL.011-221-9181
ホームページアドレス http://www.hokkaido-mazda.co.jp
代表取締役会長 横井 久（昭和32年卒）

Photo：XD Touring L Package
Body Color：ソウルレッドプレミアムメタリック

お知らせ

・緑丘サテライトセミナーは、9月と3月の2回開催予定です。詳細が決まりましたら、支部ホームページなどでお知らせいたします。

・来る7月19日(日)、札幌市民ホールにて小樽商科大学グリークラブＯＢによる、創部95周年記念演奏会が行われます。チケットは080-2024-0036（篠塚）までご連絡ください。

亡くなられた会員の皆様（平成26年11月～平成27年5月受付）

昭和15年	新野尾茂樹	2015年 4月 6日 ご逝去
昭和17年	宮塚　博	2015年 4月27日 ご逝去
昭和19年	小川　辰夫	2015年 1月 4日 ご逝去
昭和23年	小林　清昭	2015年 3月11日 ご逝去
昭和25年	渡辺　舜一	2015年 2月 9日 ご逝去
昭和25年	斎藤　敏夫	2014年12月25日 ご逝去
昭和25年	鈴木　浩明	2014年10月29日 ご逝去
昭和29年	村上　昭彦	2014年12月29日 ご逝去
昭和30年	佐々木利男	2015年 1月29日 ご逝去
昭和32年	室　吉彌	2015年 1月30日 ご逝去
昭和33年	佐藤　貢	2015年 1月 9日 ご逝去
昭和33年（短）	宮下　健二	2014年10月19日 ご逝去
昭和34年	細貝　富明	2014年12月 2日 ご逝去
昭和36年	今井　恒明	2014年12月 6日 ご逝去
昭和61年	徳永　豊	2015年 3月 5日 ご逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（敬称略）

緑丘会札幌支部
電話／FAX：011-231-6900
ホームページ　http://www.ryokyukai.com/
メール：ryokyukai@galaxy.ocn.ne.jp

新幹事　ご紹介

昨年来、支部行事にご参加いただき、幹事としてもご協力いただけることになりました。

平成卒の代表として、新風を送り込んでいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

左より、菊地圭児さん（平成13年卒）、長谷川千尋さん（平成15年卒）

左より、渡邉至宏さん（平成4年卒）、須川正啓さん（平成18年卒）

編　集　後　記

私が緑丘会に参加し始めたのは、2011年の新年交礼会でした。

激務で駆け抜けた会社員人生を終えた年。家に届いた緑丘会冊子に『新年交礼会』の案内を目にしました。「そういえば、毎年仕事で行くのを諦めてたなぁ。」と、ドキドキしながら一人で参加。会場には諸先輩方のテーブルがずらり。「私は場違い!?」と感じたのも最初だけ。『同窓生』という特別で不思議な仲間意識を感じることができました。

それをきっかけに、いくつかの行事へ出席し、女子部会や広報委員会への参加、仙台緑丘会の皆様との交流等々させて頂きました。間もなくの出産により、なかなか身動きがとれない事も多いのですが、皆様のご厚意で前回編集会議へは0歳の娘も一緒に参加させて頂きました。

行事や会議に子供同伴で参加できる事は有難く、参加できる同窓生も増えるのではと感じております。参加『できる』活動から、参加『したい』活動となり、緑丘会が益々繁栄しますように。

そういえば、天国の祖父も小樽高商時代の同窓でした。

「おじいちゃん★ひ孫も緑丘人候補だよ!」

大門あすか（平成15年卒　広報委員）

緑丘会札幌支部は、会員の皆様の会費によって運営されています。

緑丘会本部会費とは別に、札幌支部会費として年額3,000円を申し受けております。前納によるお得な割引制度もございます。

年次大会の受付でもご納入いただけますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。